

羅 針 盤			方 策	平成29年度 第1回 点検・評価		平成29年度 第2回 点検・評			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①「総合的な学習の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。 ・毎時間、意識的に言語活動を位置づけるとともに、授業アンケートによってその効果を検証する。また、効果的な言語活動や学び合い等について校内研修を行う。 	D	B	○複数のコース設定が生徒の興味・関心等にマッチし、自主的な取り組みにつながっている。今後はその成果を発表できるような機会をつくりたい。	C	C	○自主的な取り組みに差が生じないよう個々の能力に着目し、より個別的な指導を心がけるとともに各種検定等に積極的に取り組ませる。
		②生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。		○双方向的な視点に立った授業展開を各授業で目指しているが、生徒の特性もあり、生徒同士が学び合う環境を全ての学年で作り出すことに難しさがある。現状に満足せず、校内研修などを行い、本校の実態に合った学び合いの形を追求していく。	D	A	○各学年とも少人数であるゆえ、生徒と教師の距離が近く、生徒と教師間でのやりとりが終始してしまうこともあるので、そこから生徒同士の双方向的な授業への展開ができるよう、研修などを通して教師のスキル向上を図る。		
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。 	A	B	○季節ごとに生徒全員が集まれるイベントを開催。生徒数の減少を考慮しつつ、アットホームな生活環境の構築に努め、部活、学校行事の活性化を目指す。	B	C	○時期に応じて職員と生徒との交流行事を実施し、生徒と教師との一体感や、生徒同士の絆を深めさせ、部活動などへの積極性を導き出す。
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいますか。	④不登校から立ち直り、継続して登校できるようになった生徒が80%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力、社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。 	A	A	○不登校経験を持つ新入生も欠席することなく登校できている。上級生も落ち着いた学校生活を送っており、不登校傾向を示す生徒はいない。今後も教員間の連携に努め、生徒の支援を続けていく。	B	B	○不登校経験のある生徒も出席状況は概ね良好であるが、遅刻や欠席が続く生徒もいるので、その生徒への支援のあり方について職員間で共有し、授業中の様子や家庭環境の変化などに注視し、早期に改善できるよう協力する。
4 対外的な行事等に積極的に参加するよう支援していますか。	⑤西毛地区体育大会やその他の大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。 	A		○1年生の内から部活動参加を積極的に進め、校外の大会参加を促していく。 ○全校集会の場で検定合格について表彰することを通して検定受検に向けた雰囲気作りをしていく。	C		○1年生の部活動への参加が増え、部活動の活性化につながった部分もあったが、いまだ部活動に参加できない自己表現が苦手な生徒もいるので、生活体験発表など自己表現へとつながる取組を強化していく。 ○検定受験人数が減少してきているので、授業や総合的な学習の時間等を通して検定受検への積極的な取り組みを促していく。	

羅 針 盤			方 策	平成29年度 第1回 点検・評価		平成29年度 第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	自己評価	外部アンケート	改善策
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、アクティブラーニングを積極的に用いた授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。 	C	C	B	D	<ul style="list-style-type: none"> ○「アクティブラーニング」の手法に関する研修を継続し、生徒自身が考え行動できるような学習活動を目指していく。 ○補助教材を積極的に活用することで、学習の定着を図るとともに、生徒にあった補助教材の開発を進める。
	6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率8割以上の生徒が60%以上いる。		<ul style="list-style-type: none"> ・国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会に必要な漢字の習得に取り組む。 	B		B	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化に特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかせるよう支援する。 	A		A		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の変化に注視するとともに、毎日の打合せの中で確認をし、積極的に生徒へ声かけをする。 ○生徒の行動から理解される心理について研修を行い、生徒を見守る体制作りを強化する。
		⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対処に努め、解消率が100%である。						
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。 ・家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。 	A		B		<ul style="list-style-type: none"> ○欠席率は7月時点で3.8%、遅刻率は5.8%。仕事との両立を支えるため、個々の生活状況について把握し、必要なアドバイスをを行う。 ○必要に応じ、家庭とも連絡をとり、特に健康管理についての情報を共有する。
								<ul style="list-style-type: none"> ○欠席率は12月時点で4.6%、遅刻率は9.1%と1学期終了時点よりそれぞれ上昇。仕事と学校の両立に関する面談を実施し、アドバイスをする。 ○家庭での支援が行き届かない場合は職場訪問するなど生徒を見守る支援体制を構築する。

羅 針 盤			方 策	平成29年度 第1回 点検・評価		平成29年度 第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRまたは「総合的な学習の時間」などで進路学習を実施する。 ・進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ○LHR等を使い大 学見学の勧めや就 職についての具体 的な手順等について 個別に対応する。 ○ハローワークや大 学や専門学校等に 積極的に訪問し、最 新情報を入手する。 ○進路講演会を5月 に実施。現在高校 生を取り巻く進路 の現状について詳 しく説明を受けた。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ○上級学校の説明 やハローワークか らの情報提供が生 徒の行動に繋が り、学校見学や職 場見学等に参加 する生徒が増えた。 生徒の家庭環境は 複雑な場合もあ り、生徒との面談 等を適宜行いな がら、生徒の希望 に叶う進路先決定 できるよう支援を 継続していく。
		⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。							
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 在校生の就業率が50%以上である。(アルバイトを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。 ・雇用主と連携して、協力関係を保つ。 	C		<ul style="list-style-type: none"> ○特に新入生に対し、将来の職につながるような就労体験ができるようにアドバイスをする。 ○必要に応じて職場へ訪問し、生徒に関する支援関係を構築する。 	C		<ul style="list-style-type: none"> ○不登校を経験している生徒が多く在籍している点を踏まえ、家族の支援を含め、高校卒業後の自分が想像できるような支援をする。 ○職場訪問を実施し、生徒の勤務状況の確認をし、必要な支援について情報交換する。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ 職員が本校周辺の中学校を訪問して、学校説明、案内等を年1回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。 	未		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々人の活躍が分かるような「定時制便り」を作成し、保護者により身近に感じられる紙面構成を工夫していく。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々人の活躍がわかるような紙面構成にし、学校での活動が保護者に伝わりやすいよう紙面の充実を図る。
		⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。							
	12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・開校記念講演、交通安全教室、防災訓練、保健講話等の各学校行事で、地域の外部講師を招聘する。 	未		<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人生経験豊富な外部講師を招き、生徒の将来に希望を与える話を聞いた。また、藤岡警察署及び消防署に依頼し、交通安全教室を実施した。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ○今後も地域に関係する方を講師に招き、地域に関する理解を深め、またより豊かな社会生活を生きるためのスキルについて学ぶ機会を設ける。